

当たり前の落とし穴から飛び出そう

楊悦琦

皆さんは、日常生活の中で、「これは当たり前でしょう」と思ったことがありますか。たぶん、いつもあると思います。どうして人たちは常に「当たり前」とってしまうのでしょうか？これは、脳の働きに関係しているからです。人は先人の経験と環境の影響に基づき、一定の行動システムを形成します。このシステムで、人はあまり考える必要がなく、簡単に現状を過去の認識に当てはめて、行動することができます。つまり、脳がサボっているのです。しかし、このシステムは、時間、環境の変化等の影響を受けて、現状にはあまり適合しないかもしれません。その時、また当たり前だと思っていると、落とし穴にかかるかもしれません。

当たり前と思うと、考えたくなくなるかもしれません。もしいつも自分の固有の思い込みに陥れば、深く考えられません。私は日本語を勉強する時、どうして五十音表の中に「wi」「wu」「we」等の仮名がないのかという疑問がありました。しかし、「たぶん日本語はむかしからそういうもので、当たり前でしょう」と思って、深く考えなくなっていました。そんな時ある授業で、それは当たり前ではないと初めて気づきました。調べると、「い」、「う」、「え」と比べ、発音も意味も大きく変わらないことから、文部省の方は、「wi」「wu」「we」の仮名を削除しました。そして「を」は助詞としての使用頻度が高かったため生き残りました。当たり前と思わず、調べると、言葉は生き物のようで、時代とともに変わることが分かって、日本の言葉と文化の発展が深く理解できます。

当たり前と思うと、多様性が見つけれられないかもしれません。交換留学生の私には、フランスからのルームメイトがいます。私たちは、自分が当たり前だと思ったが、相手にとってそうではなかったことがたくさんあります。しかし、当たり前ではないのは正しくないとは言えません。自分の文化の「色眼鏡」を外し、異文化を理解すると、自分の文化を異なる視点から見直すことができます。

当たり前と思うと、変えたくなくなるかもしれません。今の暮らしに当たり前と思って満足して、生活をもっと便利にしようという思いがなければ、科学の発展や進歩はできないでしょう。人々が世界を変えようとする考えがあるからこそ、世界が変わり、進歩できます。個人にとっても同じです。当たりの日常に慣れ、このままで十分だと自分の快適圏から離れず、新しいことにチャレンジしたくない人がたくさんいるでしょう。しかし、自分がそのまま変わらないと、より良い自分になれません。

私が日本に来たのは、当たりの環境から離れ、深く考えて、多様性を見つけて、自分を変えたいからです。一緒に当たりの落とし穴から飛び出しましょう。当たり前を見直し、過去や身近な環境にとらわれず、自分の視野を広げ、自分を変え続け、発展している世界と一緒に進んでいきましょう。

以上です。ご清聴ありがとうございました。